

会議録

会議の名称	令和5年度 第2回加東市水道事業及び下水道事業運営審議会		
開催日時	令和5年9月15日(金) 午後2時から午後3時25分まで		
開催場所	加東社公民館 2階 視聴覚教室		
議長の氏名(会長 梅野 巨利)	出席委員の氏名		
<出席委員> ・梅野 巨利 ・柿本 靖史 ・三ツ井 英春 ・北山 敏則 ・小林 邦子 ・吉田 伊佐見 ・藤井 博之 ・山上 実佳 ・村上 加奈子 ・肥田 繁樹			
出席した事務局職員の氏名及びその職			
・副市長	小林 勝成	・技監	野崎 敏
・上下水道部長	小坂 征幸	・上下水道部管理課長	阿江 英俊
・上下水道部工務課長	西角 昌記	・上下水道部工務課副課長	荻野 克弥
・上下水道部管理課副課長	遠藤 祐希	・上下水道部管理課主査	神戸 幸子
・上下水道部管理課主査	藤井 小夜		
傍聴者 なし			
1 協議事項 適正な水道料金について(答申案)			
2 報告事項 (1) 加東市水道事業及び下水道事業の取組評価 (2) 加東市水道事業及び下水道事業経営戦略の投資・財政計画の進捗状況			
3 会議資料 (1) 次第、参加者名簿、配席図 (2) 加東市水道事業及び下水道事業運営審議会条例 (3) 資料1「適正な水道料金について(答申案)」 (4) 資料2「加東市水道ビジョン・下水道ビジョン評価総括表 (令和元年度～令和4年度)」 (5) 資料3「加東市水道事業経営戦略・下水道事業経営戦略 投資・財政計画の進捗状況」			
4 会議の経過 ⇒別紙「令和5年度第2回加東市水道事業及び下水道事業運営審議会・会議の経過」のとおり			
令和5年11月10日			
会長 梅野 巨利 _____			
審議会委員 柿本 靖史 _____			

(別紙) 令和5年度 第2回加東市水道事業及び下水道事業運営審議会・会議の経過

発言者	会議の経過 / 発言内容
	<p>1 開会 事務局より定足数の確認を行い、本運営審議会が成立することを報告した。</p> <p>2 副市長挨拶 副市長より開会の挨拶。</p> <p>3 委員紹介 各委員の紹介。委員紹介に続いて、出席職員の紹介。</p> <p>4 会長の選出・職務代理の指名 加東市水道事業及び下水道事業運営審議会条例に基づき、会長の選出と会長職務代理者の指名を行った。会長は梅野巨利氏、職務代理者は柿本靖史氏を選任。</p> <p>5 会長挨拶 会長、会長職務代理者より選任の挨拶。</p> <p>6 協議事項 事務局より「資料1 適正な水道料金について(答申案)」の構成及び各項目の内容を説明し、その後に質疑応答を行った。</p>
委員	<p>P1「はじめに」で、3町合併後の料金体系について触れているが、合併前は各町それぞれの料金体系であったものを、段階的にか、もしくは合併時に一斉にか、いずれかの形で統合されたと思う。どちらで料金を一本化したか。</p>
事務局	<p>平成18年、合併の年に料金を統一した。</p>
委員	<p>資料では続いて、平成21年度と平成24年度の水道料金値下げについて記載しているが、平成21年度は7.5%（人件費など、合併による削減費用の還元）、平成24年度は10%（県営水道受水費値下げの還元）で、当時から現在まで通してでは17%値下がりしていると言える。</p> <p>近い将来、値上げを行うとなった場合には、市民への説明が必要になってくるが、「値上げにより、過去のどの時点の料金水準まで戻るのか。」ということや、経営戦略で単価を挙げているように「次の値上げでは単価いくらになるのか。」といった、分かりやすい指標を出してはどうか。</p>
事務局	<p>言われるとおり、実際に値上げを行うとなった場合には、「どのあたりの水準になるか」を具体的に示す資料が非常に分かりやすいと思う。</p> <p>今回はまず、料金改定の前段階として、アセットマネジメントを実施し、耐震化更新計画を踏まえての料金水準の試算をしている。</p> <p>次回以降、具体的に料金改定の体系を決定する際には、今回いただいたご意見を参考に市民に分かりやすい説明を行いたい。</p>
委員	<p>今回の答申を、市長に対して提出する際にも、説明のための参考情報として心得ておくのも有効かと思う。</p>

7 報告事項

(1) 加東市水道事業及び下水道事業の取組評価

事務局より資料2について説明を行い、その後質疑応答を行った。

委員

P3、水道事業「強靱な水道の構築②耐震化の推進」では、基幹管路耐震化率の平成30年度の値が21.2%となっているが、水道ビジョンのP17では、18.3%となっている。値がずれているのはなぜか。

また、令和元年度以降の基幹管路耐震化率は、令和4年度時点で39.8%まで上げているということだが、管路延長で計算すると、約40kmに及び、かなりの更新率と思われる。平均的には、建設改良費の1~1.5%の工事ができれば良い方だと思うのだが、年間でそこまで多くの工事を行っているのか。

事務局

平成30年度の値のずれについては、ビジョンは平成30年度策定であり、P17の記載は平成29年度の実績となる。対して今回の資料では平成30年度の実績を記載しているため、異なる値となっている。

委員

それでは、平成30年度以降の更新率が10%を大きく上回っているのは正しいのか。耐震化率を10%上げようとする、年間4~5kmの管路工事を行っている計算になるが間違いはないか。

事務局

5年間で、概ねその程度の分量の工事を行っている。

委員

せせらぎ東条は、加東市が単独で持っている処理場であるか。東条町時代のものか。

事務局

そのとおりである。

委員

築年数はどれくらい経っているか。

事務局

供用開始が平成10年である。

委員

固定資産償却期間が60年の、RC（鉄筋コンクリート）造のものか。単独処理場を維持するということであれば、今後の経営の負担になるかと思われる。現状では、経営に問題ないとのことだが、今後処理場の更新はどう影響してくるか。その費用を見込んでの50年計画となっているのか。

事務局

減価償却費の計算に関して、処理場の耐用年数は法定どおりとなっている。ストックマネジメント計画に従って、点検、修繕、改築などを具体的な計画に落とし込み、必要な財源を勘案しつつ事業を進める。また直近の収支実績については、使用料改定の要否と併せて4年ごとに検討していく。

委員

処理場は今後、市単独の負担となり、大変かと思うが、将来には長寿命化を図り、うまく運用してほしい。

(2) 加東市水道事業及び下水道事業経営戦略の投資・財政計画の進捗状況
事務局より資料3について説明を行い、その後に質疑応答を行った。

委員 P1、水道事業の収益的収支については、3回ほどコロナ減免があったかと思うが、一般会計からの補填はあったのか。

事務局 令和2年度から令和4年度の3回、水道料金の減免を実施している。うち令和3年度と令和4年度は一般会計からの繰入れがあったが、令和2年度には繰入れが無く、水道事業で実施した。

委員 そのため料金収入の実績と計画の差が16.8%マイナスとなっており、水道料金減免による減となっているのか。

事務局 そのとおりである。

委員 公営企業なので、一般会計から繰入金をもらうのが当然かと思うが、一般会計も財源が厳しい状況のため難しいと考える。三木市でも一般会計からの繰入れはなかった。水道料金の減免を料金収入にそのまま反映させるのが本来の収益的収支のやり方なのか。

例えば、預貯金取り崩しなどで吸収できないかと思ったが、料金収入で計上する必要があるため、この方法で良いのか。

事務局 委員の言われている事は、会計処理上で結果として同じこととなるため、この方法で問題ないと思う。

令和2年度は新型コロナウイルスによる未曾有の時代、政治的な判断として何ができるのかを検討した結果、まず水道事業の方で市民生活と事業者の経済活動を支援することで減免を実施した。ただし県営水道の受水費の減免も実施されたので、市水道事業の負担は多少軽減された。

結果として、令和2年度の純利益は約4千万円を計上することができたが、平成30年度から令和4年度までの純利益の積算値を計画と比較すると、減少となっている。

委員 水道事業について、料金収入は平成30年度から令和4年度の5年間で計画が約52億、実績が約43億となっているが、この表には載っていない平成29年度より以前から見て、料金収入は減少しているか、それとも横ばいか。

事務局 ほぼ横ばいである。

令和2年度から令和4年度の3年間の水需要は新型コロナウイルスの影響で参考にならないと分析している。

委員 今後の料金収入の状況が、料金改定にも繋がってくるため、注視していきたい。建設改良工事については、計画的に行われているか。

事務局 計画的に行っている。

経営戦略で公表している投資・財政計画については、令和7年度までに改定するようにと、国・総務省から通達が出ている。

この度評価した計画は、当時（平成29年度又は平成30年度）に作成したものであり、今後は、実績との乖離を検証し、アセットマネジメントに基づく更新計画や最新の水需要予測を反映させ、現在値に沿った計画となるよう改定を実施していく。

委員	<p>水道事業の平成30年度から令和4年度の5年間の建設改良費が約49億円という膨大な数値となっており、市の職員が毎年実施するのは、技術継承の面も含め大変だと思うが、やっていけるという自負はあるか。</p>
事務局	<p>水道事業におけるこの5年間の建設改良費は、統合浄水場の整備工事によるものが多い。今後10年間この規模の建設改良が続くわけではない。</p> <p>今回のアセットマネジメント計画は実現可能な投資・財政計画として、建設改良費の平準化を行っている。人員配置については事業量に応じた配置を考えている。</p> <p>8 その他 事務局より意見書の提出を依頼した。(〆切9月29日(金))</p> <p>9 閉会 柿本会長職務代理者より閉会の挨拶。</p>